

## 第一生命経済研究所のホームページご紹介

アドレス：<http://group.dai-ichi-life.co.jp/cgi-bin/dlri/top.cgi>（「第一生命経済研究所」で検索可能）  
ホームページに登場したレポートテーマの一例をご紹介します。このほか数多くの詳細な経済分析レポートが掲載されていますので、経済研レポートと合わせてご活用ください。

～海外需要の獲得、国内経済が抱える課題への方策などを様々な視点から分析しています。

2010/8/3 「アジアインフラ需要獲得の効果～従来型の設備・機器の輸出では効果は限定的～」

2010/7/22 「所得税をめぐる環境とその見直し～社会保障給付に見合った負担が必要とされる～」

2010/7/15 「高校授業料無償化の影響を過大評価する消費者物価指数～高校授業料無償化の0.3%ポイント程度過大評価か。GDPにも影響が～」

掲載カテゴリ：日本経済分析チームによる「日本経済の羅針盤」

～激動する世界の金融市場動向を毎週お知らせします。

2010/8/9 「Market Watching Weekly Market Report」（毎週月曜日配信）

掲載カテゴリ：寫峰義清の「マーケットウォッチング」

～2010年度の経済財政白書からポイントを解説、コメントしています。

2010/7/27, 28 「経済白書の読み方：生産性問題（上）、潜在需要の所在（下）」

掲載カテゴリ：熊野英生の「金融市場の謎を解く」

～増税による財政再建と経済成長を両立させる条件について分析しています。

2010/8/3 「増税による経済成長の条件～我が国でクラウドイン効果は期待薄。重要となる金融政策のサポート～」

掲載カテゴリ：永濱利廣の「エコノミック・フォーカス」

～景気回復の正念場に差し掛かる欧米経済、注目の新興国経済について解説しています。

2010/7/28 「ストレステストにソブリン債の負荷をかけてみた～銀行勘定の評価損を考慮した場合、資本不足は31行で381億ユーロに拡大～」

2010/7/22 「アジアで始まった利上げドミノの動き～利上げと投機抑制で過剰流動性を解消しつつ、通貨高容認への構造転換が必要～」

掲載カテゴリ：桂畑誠治・田中理の「欧米経済を探る」、「アジア・新興諸国経済」

### 編集後記

今月号には子育てや女性の就業など少子化の進む日本が国内に抱える課題についてのレポートを掲載した。一方で、国内経済の活性化という切り口では、海外からやってくる人達も重要な要素である。

銀座に近い数寄屋橋の交差点周辺では、アジアからの団体客を目にする。ひところ朝の早い時刻には築地市場（鮮魚の競り見学）に向かう欧米人観光客にしばしば道を尋ねられた。見学の過熱でルールは厳格になったが、市場のホームページには五ヶ国語の案内が載っている。都心では海外からの観光客が確かに増えた。

彼らは銀座や有楽町で買い物をし、市場見学後には場外で食事をとる。外国人観光客が国内で使ったお金はGDP統計では輸出に計上されている。“GINZA”や“TSUKIJI”が観光資源として日本のサービス輸出につながっているわけだ。今後マクロ経済の観点からは国内への人材や資本、技術の流入への期待もある。工業品輸出や工場移転など一方向の海外進出から、双方向の流れへと変化がみられよう。（H. U）